特集 生徒の発話を促すために

発話の基礎としての音読

吹原顕子
（大阪府寝屋川市立第六中学校）

はじめに

子どもたちは英語ということばだけを学ぶことはできない。心と英語が一緒になったとき初めて胸に落ちる。最近そういう思いを強くしている。英文に込められた思いを理解し，声を通して表現することは，やがて自分自身の思いを表現することにつながっていくと考える。音読によって表現に必要な技術を体にしみこませたい。

オーラル・イントロダクションにこだわる

NEW CROWN 3 年，LET'S READ 2 の 'Fly Away Home' は音読に力を入れようと決めていた。この物語の映画をビデオで見せることも考えたが，時間が十分にとれなかったので，映画の内容はオーラル・イントロダクションに反映させることにした。

黒板に世界地図を描き，ニュージーランドを確認した後，エイミーの顔を描いた絵を見せて，

This is Amy. She lived in New Zealand with her mother. But her mother was killed in a car accident. She had to move to Canada to live with her father.

生徒の中から「離婚したの？」ということばが出てくる。

You're right. They got divorced when Amy was three years old. First they lived in Canada. Then Amy and her mother moved to New Zealand. Her mother died, so her father took her to Canada and started to live together. But he was very busy. And he had a girl friend. Amy was not happy.

ここで教科書の本文に入るが，黒板でさらに絵を使いながら進めていく。

リズムで音読を楽しむ

'Fly Away Home' の直前に 'The House that Jack Built' を持ってきて，生徒たちはリズムのある音読を楽しんでいる。続く 'Fly Away Home' の音読の際に，生徒に以下に示した点を意識させることを目標とした。

・リズムの等時性
・ポーズ
・イントネーション

リズムの等時性を守ろうとすることにより，同時に得られる効果として，次のことが挙げられる。

・語における強勢
・文における強勢
・強勢のない語の弱化
・同じ音や似た音が続くときの前の音の脱落
・複数の語からなる句をかたまりとして発音

音読のためのプリントに，リズムの等時性を示す記号をつけ，手をたたきながら読むことにした。ポーズ，イントネーションを示す記号も配した。

● ●↗○
One day

● ●
Amy was walking

● ● ○
along the lake.

● ○
"Oh, look.

● ● ○
It's a goose egg.

● ○
Here's another.

● ○
And another."

●，○で手をたたく。○はポーズを示す。リズムは崩さない。上げ調子は↗で示し，それ以外は基本的には下げ調子である。

音声だけではなく，リズムを体で同調させることが効果を大きくするように思う。自分で練習するときは，ペンで机をたたく生徒もいるし，足でリズムをとる生徒もいる。

‘Fly Away Home’を最後まで読んだ後，目標とする3点ができているか確かめるために，そのうちの1ページを読むテストを行った。練習不足と思われるときには，アドバイスをした上で再挑戦させる。1ページを読みきったときには思いきり褒め，自信をつけてやりたい。

ペア・リーディングで相手を意識する

人に伝えようとしている，ということを意識して音読させたい。聞くほうにも意識して聞かせたい。そこで，ペアを作り，ひとりが本文を音読し，もうひとりが相づちを打つ形で練習する。

NEW CROWN 3年，LESSON 6 ‘I Have a Dream’の 2 で音読を次のように行った。

A: In those days, there were many things which black people could not use.
B: For example?
A: There were toilets which black people could not use.
B: Are you kidding?
A: No. There were restaurants black people could not enter.
B: Really?
A: There were bus seats black people could not take.
B: Terrible.
A: ‘White only’ was the law.
B: Unbelievable.
A: This did not change until Mrs Rosa Parks, a black woman, challenged it.

相づちのことばは練習前に教えておく。音読する生徒には，まず教科書を読んで次に顔を上げて声を出して読み上げること（Read and look up）を心懸けさせる。

発音をチェックするためにペア・リーディングを使うこともできる。同じページでするならthの発音に着目するのがよいだろう。聞く側の生徒に，音読する生徒がthを発音するときの舌に注目させる。f, vのような外から見える音に対しては有効な方法だ。

対話文の音読から暗唱へ

‘Fly Away Home’に続くLESSON 7 ‘A Vulture and a Child’でもリズムをつけて読む指導を継続しつつ，読み進めていった。

2 を読んでいる時点で，生徒の中から，ケビン・カーターの行動に対する疑問の声が出てきた。それは 3 のトムの発言そのものである。3 を読むと久美の意見に賛成だという生徒もあり，トムと久美のことばは生徒の心にかなり近いものだと言える。

音読の練習の後，ペアを作り，Read and look upでの対話を経て，暗唱で会話することを課題とした。黒板に写真「ハゲワシと少女」のピクチャーカードを貼り，それを見ながら話をするという設定だ。生徒たちは，写真を指さしたり，視線を写真から相手へと変えながら，音声でもトムや久美の気持ちを伝えようと努力していた。

英語があまり得意ではない生徒が久美役をし，暗唱をなんとか終えたとき，「Well.... がじょうずだったね」とほめると，「だってほんとうに次のことばを考えてたもん」という答えが返ってきた。気持ちを表現しようと音読するうちに，音声による表現力はもちろん，実際にどんな場面でその表現を使えばいいかということも覚えていく。

さいごに

‘The House that Jack Built’のような音読をすることを目的とする文ではなく，叙述文にリズムをつけて読むときに，不自然さが生じることは否定できない。しかしデメリットよりもメリットのほうがはるかに大きいと感じている。

●○のついた音読プリントは，慣れれば楽譜のように読めるようになっていく。そして見なくても体が英語のリズムを覚えてしまうようになる。暗唱でも，よいリズムで話す生徒が増えた。副産物ではあるが，生徒たちはリズムをつけて読んだ英文を忘れられないと言っている。自分から話そうとしたときに，英語がリズムとともに口から出てくれることを期待する。

自信がなくて声が小さいために，あるいはリズムがよくないために，文法的に正しい英文を話していてもうまく伝わらない，ますます自信を失ってしまうという悪循環をなくしたい。一人ひとりの声を聞く回数を可能な限り多く持ち，ほめることやアドバイスをすること，そして全体への指導にフィードバックすることを大切にしたい。